

芭蕉の能関連の句

<p>「杜若」 杜若似たりや似たり水の影 (続山井寛文7年)</p> <p>「景清」 景清も花見の座には七兵衛 (真蹟扇面 貞亨元年)</p> <p>「熊坂」 熊坂がゆかりやいつの玉祭 (笈日記 元禄2年)</p> <p>「胡蝶」 胡蝶にもならで秋経る菜虫哉 (後の旅 元禄2年)</p> <p>「西行桜」 西行の庵もあらん花の庭 (泊船集 貞亨元年)</p> <p>「遊行柳」 西行の草鞋もかかれ松の露 (笈日記 元禄2年) 田一枚植ゑて立ち去る柳かな 月清し遊行のもてる砂の上 (奥の細道 元禄2年)</p> <p>「菊慈童」 盃や山路の菊と是を干す (俳諧坂東太郎 延宝7年) 山中や菊は手折らぬ湯の匂 (奥の細道 元禄2年)</p>	<p>「安宅」 夏草や兵どもが夢の跡 五月雨の降のこしてや光堂 (奥の細道 元禄2年)</p> <p>「隅田川」 塩にしてもいざ言伝ん都鳥 (俳諧江戸十歌仙 延宝6年)</p> <p>「敦盛」 須磨寺やふかぬ笛きく木下やみ (笈の小文)</p> <p>「海士」 須磨のあまの矢先に鳴か郭公 (笈の小文)</p> <p>「土蜘蛛」 蝶鳥の浮つき立つや花の雲 (やどりの松 貞亨元年)</p> <p>「芦刈」 月見せよ玉江の芦を刈らぬ先 (芭蕉翁一夜十五句 元禄2年) 松なれや霧えいさらえいと引くほ どに (俳諧翁艸 延宝年間)</p> <p>「鉢木」 月やその鉢木の日のした面 (俳諧翁艸 元禄6年)</p>	<p>「吉野天人」 花を宿に始め終りや二十日ほど (真蹟懷紙 元禄元年)</p> <p>「歌占」 髭風ヲ吹いて暮秋嘆ズル八誰ガ子 ゾ (虚栗 天和2年)</p> <p>「田村」 一里はみな花守の子孫かや (真蹟懷紙/猿蓑 元禄3年) 名月の見所問はん旅寝せん (芭蕉翁月一夜十五区 元禄2年)</p> <p>「邯鄲」 富士の雪慮生が夢を築かせたり (六百番俳諧発句合 延宝5年)</p> <p>「三井寺」 三井寺の門敲かばや今日の月 (真蹟懷紙 元禄4年)</p> <p>「氷室」 水の奥氷室尋ぬる柳哉 (曾良書簡 元禄2年)</p> <p>「道明寺」 水向けて跡訪ひたまへ道明寺 (俳諧江戸広小路 延宝6年)</p>	<p>「卒塔婆小町」 百歳の気色を庭の落葉哉 (真蹟画賛/曲水宛書簡 元禄4年)</p> <p>「夕顔」 夕顔の白ク夜ルの後架に紙燭とり て (武蔵曲 延宝9年)</p> <p>「実盛」 むざんやな甲の下のきりぎりす (奥の細道 小松 元禄2)</p> <p>「姨捨」 倂や姥ひとり泣く月の友 十六夜もまだ更科の郡かな (更科紀行 貞亨5年)</p> <p>「羅生門」 荻の穂や頭をつかむ羅生門 (蕉翁句集草稿 元禄四年)</p> <p>「鶉飼」 おもしろうて やがて悲しき鶉舟かな (貞亨5年) おもしろうさうしさばくる鶉縄哉 (阿羅野 卷之三)</p>
--	--	---	--